



日本作業科学学会
第29回学術大会 in 札幌

日常の知と 科学の知との 対話

Dialogue Between Everyday
and Scientific Knowledge

私たちの日常には、経験や営みに根ざした多様な知があります。作業科学は、そうした実践的な知と科学的な知のあいだに橋をかけてきました。

今、複雑な社会課題に向き合うためには、研究者・実践者・当事者がそれぞれの知を持ち寄り、対話しながら共に考えることが求められています。

本大会では、異なる知が出会い、新たな問いや価値が生まれるプロセスを大切に、作業の理解と共創の可能性を広げていく場をめざします。

2026年
9月5日(土)・6日(日)
札幌医科大学(予定)

大会長

高島 理沙
(北海道大学)

副大会長

坂上 真理
(札幌医科大学)

実行委員長

土谷 里織
(新さっぽろ脳神経外科病院)

副実行委員長

森元 彩子
(札幌北訪問看護ステーション)

プログラム

基調講演

Kim Walder 氏
(Griffith University, Australia)

“Bringing Occupational Science to Life:
Cultivating a Robust Professional
Identity through OS”

「作業科学を生活の中に:
OSを通じて堅固な専門職アイデンティティを育む」



佐藤剛記念講演

山根 伸吾 氏
(令和健康科学大学)

「作業科学で育まれた知と私的思索」

